

史料群番号 11

史料群名	くまがいせつこ 熊谷節子家文書	旧所蔵者	熊谷節子
探訪時住所	宮城県本吉郡大谷村		
現在の住所	宮城県本吉郡本吉町		
探訪年月	昭和24（1949）年8月		
史料の年代	宝永7（1710）年～大正3（1914）年	史料の 総点数	（約4000点）
年代の内訳	近世 約1600点/近代 約950点/不明 約1450点	筆写稿本	あり
既刊行目録	「1950年3月 漁業制度資料目録 第1集 全国篇Ⅰ 日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」		

収蔵にいたる経緯

「漁業制度資料目録 第1集」によれば、本史料群は「漁業制度資料調査保存事業」を主導していた宇野脩平によって昭和24（1949）年8月に探訪され、寄贈の手続きがとられている。事業の正式な発足は同年10月だが、それ以前から事業を主催した宇野脩平は、東京月島にあった東海区水産研究所の一室で準備作業を進めていた。同年8月、水産庁の調査で宮城県気仙沼を訪れた際、周辺漁村の史料探訪を行い、いくつかの古文書群の寄贈・寄託を受けている。その際「漁業制度資料調査保存事業」は、まだ正式には発足していなかったため書類は使えず、宇野が同時に所属していた「近世庶民資料調査特別委員会」の書類を用いている。

史料群の概要

中央水産研究所所蔵史料群としては、中塚家文書（岡山県）、前川善兵衛家文書（岩手県）につぐ分量の一括史料群である。

近世期のものがほぼ70%を占め、内容は多岐にわたっている。大別すると漁業に関するものと、行政に関するものに分けられ、さらに前者は、建網の一種である大謀網漁に関するもの、煎海鼠漁などの磯漁に関するもの、五十集など水産流通に関するもの、後者は本吉（もとよし）郡平磯（ひらいそ）村（大谷村は平磯村と岩尻村が明治8年に合併して成立）の村政に関するもの、本吉郡の行政に関するものにそれぞれ分けられる。

近世期の仙台藩は地方支配の方法として、大肝入・肝入の制度を取っていた。本史料群中の宝暦14年7月の口上書に「大肝入 熊谷伊左衛門」の名が見え、熊谷氏が本吉郡大肝入を担っていたことがわかる。大肝入に対して、肝入は各村落の名主にあたる。

大網と呼ばれる大謀網は、鮪・鯛・鯖などの回遊魚を捕らえる目的で、あらかじめ海中に建て込んでおくもので、入りくんだ岩礁地帯が続き、海藻類が多い本吉地方沿岸では盛んに行われていた。なかでも、平磯沿岸の大網の歴史は古い。本史料群には「大網入料帳」などの大網関係の帳簿が多数残されており、大網経営の実際をよく伝えている。（本吉町誌）

